

びるめん ニュース あいち

Vol.347

2018 / 3



Building Maintenance News AICHI

発行・編集

一般社団法人愛知ビルメンテナンス協会 広報・会員増強委員会

E-mail aichibm@lilac.ocn.ne.jp / URL <http://www.aichi-bma.jp>

〒460-0008 名古屋市中区栄2-1-10 伏見フジビル8階

TEL 052-265-7536 / FAX 052-265-7537

今月の視点

ブランコ作業(ロープ高所作業)の 安全管理について

一般社団法人中部ガラス外装クリーニング協会 副会長 坂光造

一般社団法人愛知ビルメンテナンス協会の皆様には、日ごろから(一社)中部ガラス外装クリーニング協会の活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

わたくしは、中部ガラス外装クリーニング協会では、副会長を仰せつかると同時に、(一社)全国ガラス外装クリーニング協会連合会では、安全技術教育委員長の役を頂戴しております。

今回は、弊会が取り組んでおります教育事業について、触れさせていただきたいと思います。

皆様もご存知のことと思いますが、平成28年1月1日に労働安全衛生規則の改正により、ロープ高所作業(以下、ブランコ作業という)の安全対策にいくつかの義務付けがなされました。また、同年7月1日には、ブランコ作業従事者に対する特別教育の義務化がなされました。

この特別教育の義務化により、ブランコ作業における労働災害は減少すると期待されておりましたが、特別教育の義務化から1年半が経った現在の状況は、減少するどころか増加傾向にあるといえます。

実際の安全パトロールでもブランコ作業では、特別教育は受講していても、事業者に課せられた、作業計画の段階からのいくつかの安全対策もなされていない現状が、散見しております。

これは、実際の従事者のみが特別教育により、教育を受けても、事業者や管理者の認識が薄く、労働安全衛生規則上の

いくつかの安全対策の義務付けを理解されていないケースが大半であります。

そこで弊会では、ブランコ作業より労働災害を撲滅するためには、作業従事者への教育のみでは、その歯止めに限界があると考え、現在『ブランコ作業管理者向け安全教育講習会』の新設に向け、取り組んでいるところであります。

この講習会は、事業主はもとより、元請け会社の管理担当者や安全担当者の方のための講習会であります。

この講習会では、労働安全衛生規則に定められている現場調査記録の作成や、作業計画書の作成、完全管理上のポイントなどをまとめ、教育する講習会となっております。

御協会の会員企業の皆様にも是非とも参加いただき、ブランコ作業における事業者の責任並びに元請け会社としての安全管理者責任の認識の向上に、お役立ていただけたらと存じます。

また、高所作業における安全作業の構築には、ビルオーナー・元請け会社・施工会社の三位一体の取り組みが必要不可欠であります。

その一役を担う御協会の会員企業様にも多くの期待が、寄せられるところでございますので、どうかよろしく願い申し上げます。

最後になりますが、どうか弊会の行っております安全教育を積極的にご活用いただき会員企業様の安全管理にお役立ていただけたらと存じます。



「愛知県公契約に関する協議の場」について

平成30年2月6日(火)午後3時より、地下鉄丸の内駅近くのアイリス愛知において「愛知県公契約に関する協議の場」が愛知ビルメンテナンス協会などの関係団体や学識経験者を交え、宮本悦子愛知県副知事のあいさつに始まり開催されました。

この協議の場は、公契約(県などの公的機関が民間の事業者に業務を委託する際に結ぶ契約)における公正性・透明性の確保、工事やサービスの質の向上などの課題への対応に加え、公契約を政策推進の手法として積極的に活用していくために、意見交換の場として開催されるものです。



愛知県は公契約に関する事業者の評価項目に、「環境に配慮した事業活動(環境マネジメントシステムの導入)」、「障がい者等への就業支援(障がい者法定雇用率の達成)」、「男女共同参画社会の形成(女性の活躍促進)」、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランスの推進)」などを上げており、協議は愛知県より公契約条例への取組などの説明に始まり、その後各委員より、公契約条例の効果については建設業など関係企業に限られており、今後どのように推進するかなど様々な意見が述べられました。



び「標語」と本年度より新たに加わりました「業務改善提案」の優秀作品の表彰式と展示が行われました。(優秀賞作品については、ホームページに掲載)



講演会 LLP笑いプロジェクト代表 堀 登志子氏

講演会では、LLP笑いプロジェクト代表の堀 登志子氏より「楽しい職場は笑顔から～笑いの効用」をテーマに、笑いは人を



閉会の言葉 堀口 弘 労働安全衛生委員長

元気にするとともに、働く場の生産力をあげる楽しいコミュニケーション手段として大切であるとお話をいただきました。

会場では「笑ってあいうえお体操」や「笑顔」の作り方など参加者全員で笑い・笑顔の効用を体感致しました。

最後に労働安全衛生委員会の堀口 弘委員長から閉会の言葉があり、大会は無事終了しました。



労働安全衛生優秀作品表彰

平成29年度 労働安全衛生大会

労働安全衛生委員会

平成30年2月7日(水)午後、名古屋国際会議場において愛知労働局のご後援をいただき、52社115名の参加者を得て労働安全衛生大会が開催されました。



開会あいさつ 加藤憲司会長

加藤憲司会長の開会あいさつに続き、愛知労働局 労働基準部安全課 安全専門官の伊藤一弘氏よりビルメンテナンス業における労働災害発生状況の推移、事故の型別および起因物別災害発生状況、負傷性質別および年齢別災害発生状況分



来賓あいさつ 愛知労働局 労働基準部 安全課 安全専門官 伊藤 一弘氏

析についてお話とごあいさつをいただきました。

また、大会では、労働災害の防止を目的に募集した労働安全衛生作品「ポスター・デザイン」、「ヒヤリ・ハット事例」及

ポスター・デザイン部門		
最優秀賞	栗木 誠也様	大成(株)
優秀賞	舘 和孝様	ジェイアール東海総合ビルメンテナンス(株)
優秀賞	根津 敏様	昭和建物管理(株)
佳作	大須賀美緒様	大成(株)
業務改善提案部門		
最優秀賞	小屋敷和雄様	ジェイアール東海総合ビルメンテナンス(株)
優秀賞	三輪 宏之様	ジェイアール東海総合ビルメンテナンス(株)
佳作	長屋 恵悟様	ジェイアール東海総合ビルメンテナンス(株)
佳作	丸石 政行様	昭和建物管理(株)
ヒヤリ・ハット事例部門		
優秀賞	稲垣 智彦様	コニックス(株)
優秀賞	今村 仁様	ジェイアール東海総合ビルメンテナンス(株)
優秀賞	山田 純子様	ジェイアール東海総合ビルメンテナンス(株)
優秀賞	杉本 達郎様	大成(株)
優秀賞	水埜 久章様	名鉄ビルディング管理(株)
標語部門		
優秀賞	今木 健介様	赤門ウイレックス(株)
優秀賞	西村 由佳様	コニックス(株)
優秀賞	林 友弘様	コニックス(株)
優秀賞	大竹 正子様	ジェイアール東海総合ビルメンテナンス(株)
優秀賞	谷本 藤男様	(株)ダイケンビルサービス名古屋支店
優秀賞	竹内 里美様	大成(株)

平成29年度貯水槽水道の適切な管理に関するシンポジウム

平成30年2月13日(火)アイリス愛知 大会議室において、一般社団法人全国給水衛生検査協会が主催する「平成29年度貯水槽水道の適切な管理に関するシンポジウム」が開催されました。

貯水槽水道は、ビルで働く人やマンションに住んでいる人たちの水道水として多くの方の口に入っており、貯水槽水道の適切な管理は国民の水の安全に関して極めて重要であり、また、災害時における応急給水源の適切な管理と防災対策の強化が課題であると捉え、国、地方自治体、登録検査機関、清掃事業者、貯水槽メーカーなどの関係者が一堂に会して貯水槽水道の適切な管理とその活用に関しての意見交換を行い、その推進を図ることを目的に行われました。

当協会はこのシンポジウムの後援を務めており、今回山口義浩理事(三永ビルド(株))が「貯水槽水道の管理水準の向上について」をテーマとしたパネルディスカッションにパネリストとして参加し、①ビル衛生の法制、ビル管理の基本的な考え方、その問題点及び愛知県内の状況、②ビルの衛生特に水管理の状況と問題点、③ビルオーナーや一般利用者に対する普及啓発の対応についてお話をいただきました。

基調講演では「貯水槽水道の適切な管理とランキング表示制度について」及び「震災時における水の確保について」を演題とした2つの講演が行われ、貯水槽に関する問題点やその対応策の在り方について、実践的な議論がなされました。



清掃作業従事者研修指導者講習会(再講習)

平成30年2月20日(火)午前9時30分より大成(株)研修センターにおいて、清掃作業従事者研修指導者講習会(再講習)が79名の参加者を得て開催されました。

講習会は、建物清掃管理第二委員会 勝野英雄委員長のあいさつで開講し、午前中は、「建築物衛生法」について大島

渡講師(元県職員)から、「安全と衛生」について勝野英雄講師(株)セイコー)から講義いただきました。



勝野委員長挨拶

午後からは、「教育技法」について吉田一仁講師(中日コプロ(株))から、「作業管理」について坂口菊生講師(タイガー総業(株))から、「顧客対応」について浅野裕一郎講師(大成(株))からそれぞれ講義いただきました。最後に、最新の



大島講師

情報提供として、サラヤ(株)中部支店の東大史講師より「感染症対策と正しい予防法」をテーマに講義があり、講習会は無事終了しました。



吉田講師



坂口講師



浅野講師



サラヤ(株) 東講師

	講習科目(内容)	講師
午前	建築物衛生法 ・建築物衛生法、事業登録制度の趣旨と従事者研修の法的位置付け	大島 渡氏 元県職員
	安全と衛生 ・安全衛生、労働災害	勝野 英雄氏 (株)セイコー
午後	教育技法 ・講義技術	吉田 一仁氏 中日コプロ(株)
	作業管理 ・ホテル清掃の作業計画	坂口 菊生氏 タイガー総業(株)
	顧客対応 ・顧客満足 ・個人情報保護法 ・マナー	浅野 裕一郎氏 大成(株)
	最新の情報提供 ・「感染症対策と正しい予防法」	東 大史氏 サラヤ(株)中部支店



講習会全体風景

理事会・各種委員会

◆第7回 災害支援検討特別委員会

開催日時 平成30年2月2日(金)午後1時30分～2時30分
 開催場所 協会事務局 会議室
 出席者 新原委員長始め4名の出席を得て以下について協議
 ・災害支援清掃道具の選定について
 ・「災害時における避難所等の清掃業務支援」の再調査について

◆第4回 監事会

開催日時 平成30年2月21日(水)午前11時～正午
 開催場所 協会事務局 会議室
 平成29年10月～平成30年1月に実施した事業及び収支の状況について大澤・加藤・小林監事による監査を実施した

◆第11回 理事会

開催日時 平成30年2月21日(水)午後1時～3時
 開催場所 協会事務局 会議室
 出席者 加藤会長始め13名の出席を得て、加藤会長が議長となり審議を行った。
 主な審議事項 新年度事業計画・予算案について
 報告事項 (監査報告/委員会報告/全協報告/地区本部報告/事務局報告)

◆第10回 広報・会員増強委員会

開催日時 平成30年2月21日(水)午後3時30分～4時30分
 開催場所 協会事務局 会議室
 出席者 酒井委員長始め4名の出席を得て以下について協議
 ・びるめんニュースあいちの編集について
 ・びるめんニュースあいちの新企画について
 ・会員増強策の広報活動について

◆第2回 建物設備管理委員会

開催日時 平成30年2月27日(火)午後1時30分～2時30分
 開催場所 協会事務局 会議室
 出席者 首藤委員長始め7名の出席を得て以下について協議
 ・次年度の事業計画について

平成29年度 労働安全衛生優秀作品

標語 **あいまいな**

**「つもり」と「はず」が
事故のもと**

コニックス(株) 西村 由佳さんの作品

平成30年4月の予定

卯月

- 17日(火) 広報・会員増強委員会
- 18日(水) 監事会、理事会

お心当たりがおありでしたら、ぜひご紹介ください。

愛知ビルメンテナンス協会 会員増強キャンペーン

普通会员の入会金が...

通常入会金 ¥200,000円 **15万円ディスカウント**

お申込み期間 平成29年10月1日～平成30年3月31日

◇入会審査書類も簡素化を図り、さらに入会しやすくなりました。

※上記期間中に当協会「普通会员」に入会された方が対象です。

※別途:会費月額17,000円、全国協会の入会金50,000円及び会費月額10,000円が必要となります。

3月末まで割引
 今だけ5万円

賛助会コーナー

スプレーするだけで作業不要!
 カーペットのシミ消しに。



YUSHIRO MAGIC

色柄安心 酸素系漂白剤 除菌剤配合

カーペット用

コーヒー、ジュース、ワイン、血液など水溶性のシミの除去

YCM-水性シミ消しα カーペット用

ユシロ化学工業株式会社

〒458-0801 愛知県名古屋市長区鳴海町杜若 100
 電話 052-891-0967 FAX 052-892-4616

事務局だより

愛知ビルメンテナンス協会は愛知県と協定を結び、大規模災害が発生した場合、避難所などの環境衛生面に係る、清掃業務の支援を行うことになっております。

災害に備えるには、日頃から自分が支援者として行動できるよう、まずは自分の身を守らなければなりません。よく言われることですが、エレベーターに乗っている時に地震に遭遇したら、すべての階のボタンを押して、とにかく降りなければなりません。また、地下街の多い名古屋市では、停電で真っ暗になった場合にも、60メートルおきに入出口が設置されているため、いざという時は煙を吸わないように身を低くして慌てず、壁伝いに移動すると外へ出ることができます。ことを知っているのと冷静に行動できます。

日頃から自分の身を守ることに注意を払い、職場や自宅の安全を築き、いつ遭遇しても良いように、自分が被災者ではなく支援者として活動できるようしっかりと備えたいものです。